

国際農業工学 レポート 4月28日分

農業工学における分野間の連携について、私はダムについての意見を述べてみようと思う。治水のみや利水のみを行っているダムを多目的ダムにすることやこれから建設されるダムの役割をより多くすることで地球の限りある資源をより有効に使えると思う。ダムが果たしうるすべての役割を足すことは無理かもしれないが、一つの役割を足したり、既存ではない役割が担えるようになるのであればいいと思う。個人的には今は発電がおこなわれていないダムを工夫して発電がおこなえるようになれば原子力発電についてもめる人々が少なくなることが期待でき、将来資源が枯渇しても安定して電力を生み出せる。しかも発電に使えるということになれば国からの費用がおりやすくなり、農業工学が開発に協力しているという事実から研究費が多くおりることが予想される。これは発電に限った話ではなく、ダムには多くの可能性が秘められている。新たな可能性を見つけ出し、その地域に沿った開発を行うためには農業を行う地域住民だけでなく、その他の職業を営んでいる人々に目を向ける必要がある。農業工学内のみならず他分野の発展を手助けすることで、他分野の知識をより多く得ることになり、逆に他分野の専門家たちも農業工学のことをより詳しく知ることになり、新たな視点から素晴らしい提案を生み出してくれるかもしれない。確かに他分野の発展の手助けをしたからといって確実に恩恵を受けられる保証はないが、自らの分野の発展のみ考えることはよりよい結果を得るための可能性を低めることになり得策ではないと思う。なにより他分野と連携することで人との繋がりが生まれその後に大きく影響するはずだ。